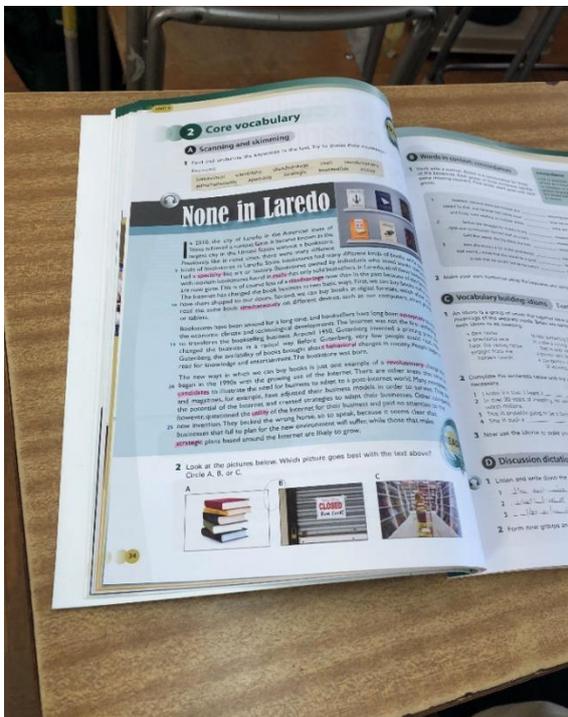


## 松本県ヶ丘高等学校（長野県）

長野県松本市の美しい山々に囲まれた松本県ヶ丘高等学校は、2023年に創立100周年を迎える歴史ある学校。平成6年に英語コースが設置され、質の高い多くの卒業生を25年以上輩出してきました。その英語教育に力を入れている松本県ヶ丘高校では、3年前からケンブリッジ大学出版局より出版している *In Focus* シリーズをご採用。その英語コースで教えている郷原先生と ALT の Jhana 先生に導入のいきさつ、また、どのような変化が表れているかを伺ってきました。

**ケンブリッジ大学出版（以下ケンブリッジ）:** *In Focus* シリーズを選んだきっかけを教えてください。



**郷原先生:** ある英語教育研究会の教材展示ブースにケンブリッジのブースがあり、立ち寄ってみました。そこで新年度向け教材について相談していたところ、*In Focus* を薦められました。批判的思考力も一緒に伸ばしていく事ができる点に大変興味を持ち、また、トピックが高校生の興味関心に訴えかけるものだと感じました。審査見本を細部まで確認し、ALT の先生方や英語科の先生方と多くの時間をかけて話し合いを繰り返した結果、数多くの見本の中からこの教材を選ぶことにしました。

**ケンブリッジ:** 松本県ヶ丘高校では *In Focus* をどのように使っていますか。

**郷原先生 & Jhana 先生:** 基本的には ALT と JTE の Team Teaching (TT) で授業を進めています。ALT の先生がリードする事も多いですが、シンプルで分かりやすい指示に努めています。授業は全て英語で行っていますが、生徒はしっかりと理解しています。時には少し難しい内容や指示が出たりしますが、その場合は、日本人の先生方が分かりやすい表現で例を挙げたりするなど工夫をしています。*In Focus* の良いところは、幅広いトピックとクリティカル・シンキングのセクションです。例えば、新しいユニットに入る場合、最初のページに書かれている絵を見てウォーミングアップを行います。*In Focus* はこの部分が秀逸だと思います。現在はショッピングがテーマのユニットを扱っています。衣服を販売している店内の絵が描かれていましたが、教科書に書かれている質問だけでなく、販売員の後ろになぜ置時計が置かれていたのかなど中心人物の背景にも目を配り物事を深く見るように心がけています。生徒には多角的に物事をとらえ考える良い

機会になっていると思います。基本的には、ペアやグループでのディスカッションも多く、持ち時間を決め、集中してアクティビティを行えるよう工夫しています。先生もグループディスカッションに参加し、生徒の考え方を聞き、更に深く考えられるようグループの中でもファシリテートしていきます。グループディスカッションはグループ内だけで情報が終わらないように、最後には各グループの代表から情報をまとめ発表してもらっています。長文を読む際は重要なワードをハイライトしたり、ペアで内容を話し合ったりします。

更に内容の理解を深めるため、教材で紹介されているビデオを見たり、時には自分たちで探してきたトピックに関連したビデオを見せることがあります。生徒は集中して動画を見ており、視覚的なサポートも手伝ってか、字幕が無くとも要点はしっかりおさえているようです。

**ケンブリッジ :** *In Focus* を使い始め3年目に入られたと思います。とても気に入ってくださるようになっていますが、使っていてどのようなところが良いか具体的に教えていただけますか。



**郷原先生 & Jhana 先生 :**

今の3年生は *In Focus 3* を使っていますが、最初、1年生の時に *In Focus 1* から始めました。最初は大変なところもありましたが、生徒は着実に力をあげCEFR B2~C1レベルの教材を使えるようになりました。語彙レベルはとても良いと思います。洋書ですが、しっかりと大学入試や英検2級から準1級レベルの試験に出てくる語彙が選定されて出てきます。生徒は大学受験用の単語集を学んでおり、そこに出てくる単語を *In Focus* の中で見つけては反応しています。そして何よりトピックです。幅広いテーマが取り上げられ、しっかり議論できる内容になっており、生徒もディスカッション中は一生懸命自分の意見を英語で伝えられるように努力している様子が窺えます。この *In Focus* によってスピーキングとライティングの力は相当鍛えられているのを感じます。外部試験においても特にスピーキングとライティングのスコアが伸びるなどポジティブな結果が出てきています。

**ケンブリッジ :** *In Focus* を使っているクラスではどのように評価をしていますか。

**郷原先生 & Jhana 先生 :** テストは、基本的にリーディング問題では、語彙は *In Focus* のリーディングから選択してきたものや授業で行ったリーディングの内容確認問題等を主に出題していますが、応用問題として大学入試の問題も出題しています。ライティングは様々なクリティカル・シンキング活動をベースにしたもの、またスピーキングは、最近では、参加している生徒のディスカッションをオブザーバーに徹し評価する方法も取り入れています。リスニングは主に大学入試

問題や各種資格試験等の応用問題を出題して評価しています。ケンブリッジで用意されている Assessment program はありますが、現状では使っていません。

**ケンブリッジ**：洋書を検討されている先生方から「洋書は授業準備に時間がかかりそうなイメージがある」という声を頂くことがあるのですが、*In Focus* を使ったの貴校の場合はいかがですか。

**郷原先生 & Jhana 先生**：基本的に *In Focus* を使っている授業は英語コースの専門課程における授業なので英語だけで行う授業では洋書が使いやすい環境にあると言えます。また、授業準備において学校であまり時間をかけず、ALT の先生とのメールでのやり取りを行うなど工夫をしています。このような導入、このような進め方、ビデオはこれを見せよう、などの内容をメールで細かく認識合わせを行っています。特にお互いに学校にいない時間帯でのメールのやり取りがとても効果的だと思います。学校での準備ですごく時間がかかったという経験は今のところあまり無かったように記憶していますが、家で授業に使える素材や動画を探したりしていますので、総合的に見れば、やはり時間をかけていることにはなっているかもしれません。

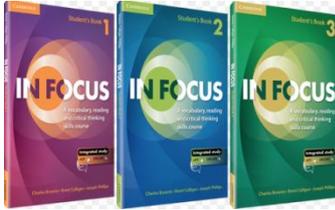


### ～ケンブリッジスタッフより～

すれ違うたびに生徒が元気よく挨拶してくれる、そんな生徒さんで溢れているのが松本県ヶ丘高校です。*In Focus* を使っている英語コースのクラスは、多角的に考え、自分の言葉で意見をしっかりと伝える、元気のあるクラスでした。そしてディスカッション中はお互いの意見を尊重し、相手の言葉にしっかりと耳を傾ける、そういう姿勢をみんなが持っている、まさに大学と同等レベルの授業！クラスでは、Jhana 先生と郷原先生のやりとりや進めるテンポが良く、生徒も授業に集中しやすいのではないかと思います。普段考えたことがないような質問も出てきましたが、生徒が懸命に考え答えている姿が印象的でした。英語コースの生徒でも 1 年次は難しかったという

*In Focus*。現在どう思うか聞いてみたところ、「今では楽しい！」と笑顔で答えが返ってきました。自信がついてきているといった感じでしょうか。もし時間が戻せるなら私も高校生の一人としてこの授業を受けてみたいと思う時間でした。

取材日：2018年11月



***In Focus series***

CEFR A2~C1 までを3つのレベルに分けたコースブック。アカデミック英語にフォーカスを当て、ともにクリティカルシンキングの発展も目指します。ディスカッションに適したテーマのトピックも幅広くカバーしながら、外部試験に出てくる語彙もカバーしていることから

高校での採用も伸びている洋書の1つ。